
勇者

null

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勇者

【コード】

N6491V

【作者名】

null

【あらすじ】

携帯ゲームやってて思ったこと。です。

mixiからの転載。

眼前を遙かに渡る、淡い新緑の草原を軽快な足どりで駆け抜けていく。

常に優しい風が頬を撫で、かつ常に暖かな陽光が降り注ぐ大地は、溢れんばかりの草花や実をたたえながらも単調な景色が続いている。

勇者は立ち止まり、見回した。

いま彼の周囲はたくさんの子狐が跳ね回り、彼が動くことに歩を速める。そして飛びかかろうと身構えているのだった。

肩に背負いし大剣を解き放ち、勇者は大股に跳ねて自分から近づいていった。

これを見た茶色い毛むくじやらの獣は、喚声を上げて襲いかかる。勇者はたちまち2、3匹に囲まれた。

そんな状況にしかし彼は顔色一つ変えることなく、むしろ悦に入っただよりに戦い出す。この敵の強さはよく理解しているからだ。

彼の積み上げたレベルは、此処をうるついている連中からはさほどの痛手を被ることなく、たやすく勝利をものにできることを裏付けている。

瞬く間の連続攻撃にまず正面の敵が撃破された。

今度は右隣の敵に向けて刃を振りかざす。元より敵などではない。

とどめが浅かったか、それは辛うじて生き残り、怖じけついで逃げ始めた。

勇者は黙って追う。

背後にまだ仕留めていない敵がつつくように攻撃し続けているが、そんなものは小虫が刺してくるようなもので文字通り痛くも痒くもないのだ。

それよりも逃げた瀕死の子狐に彼は苛立ち、なんとか追いつくがろうとしている。

子狐は必死に駆け、縦横に跳ねて勇者を振り切ろうと逃げ回る。勇者は大剣を突き出したままいつでも薙ぎ払えるよう、ときおり空を切って重く唸り、それに答えるように子狐は泣き叫びながら足を動かした。

遅々としてなかなか捕まらぬ鬼ごっこのようなそれに腹が立っていた勇者は、ぐつと足に力を込めると馬車馬のように己を駆り立て、いよいよ剣を伸ばして子狐をとらえた。

一閃の後、あっという間に子狐は消え去った。

彼はしっかりとその報酬を拾いあげると、未だに残っていた背後の敵に向き直り、落ち着き払って剣を繰り出した。

今度は面倒な追いかっこにならぬよう、必殺の剣に連続攻撃も兼ねて確実に仕留める。子狐は一声も発しないまま消えた。

すぐに彼は報酬を獲得する。勘定し、どれくらい貯まったのか確認すると、大剣を肩に担ぎ次の獲物を探して進み始めた。

次のステージの敵はなかなか強い。十分に準備が整うまで、金と力を稼がなくてはならぬ。

(後書き)

…書いてみるとなんてことなかつたノ(^ o ^)ノ

ぱぱつと書いたものです。

馬車馬のように駆け立てて云々は、俗に言うA連打ですW

あ。携帯だから真ん中の決定ボタンかww

ちなみにこの時の敵は本当に子狐でした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6491v/>

勇者

2011年10月9日13時16分発行